

<p>教育目標</p> <p>心豊かに たくましく生きる 子どもの育成</p>	
<p>年度末の最終評価</p>	
自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師との信頼関係をもとに、子どもたちが安定して、自分の思いを出して遊んだり、友達との関わりを楽しんだりする姿が見られた。子どもの思いや発達などを見取り、一人一人に丁寧に関わることで、子どもが自信をもって活動に取り組めるようになり、主体的な姿が見られるようになった。 ・支援が必要な子どもも多い中、子どもたちにさまざまな経験をしてほしいという願いのもと、多くの活動に取り組む姿勢が見られた。一方で、その願いが強くなるあまり、活動が多かったり、教師が提案する遊びが中心になったりすることもあった。夢中になって遊んだり、子どもの生活や遊びを十分に深めたりするために、意図をもった環境や子どもへの願いをしっかりともち、子どもの姿を起点に保育を考える姿勢を職員全体で共有し、取り組んでいきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人と丁寧に関わっていることで、子どもたちがのびのびと活動できているのだと感じている。園内の協力体制のよさも感じられた。 ・幼稚園での経験が、小学校での学びや生活にとってもいきていると感じるので、今後も主体的に遊ぶ保育に取り組んでほしい。 ・毎年の地域との行事も行うことができ、地域の人と交流ができることが嬉しい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和7年10月18日～24日	学校運営協議会理事
最終評価	令和8年2月18日～25日	学校運営協議会理事

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びの中での一人一人の育ちや教師の思いを明確にし、子どもがやってみたくなるような環境や教材など、一緒に遊びながら子どもと共に作り出し、活動の充実を図る。 ・個々の興味・関心を探り、教師が意識して、つながりが生まれるような環境や伝えたくなるような体験ができる環境構成や援助について考えていく。 ・主体的に遊んでいる姿や人と関わったりつながりしている姿など、遊びや生活での子どもの姿を話し合ったり、エピソード研修をしたりして、子どもの姿の見取り、発達の様子、環境構成や教師の援助について話し合う。
--

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・つながりの視点から、子どもが主体的に友達と関わったり、遊んだりしている姿をとらえ、環境構成と教師の援助について、エピソードから読み取る研修を実施。
- ・公開保育とその事後研修での協議で学んだ内容（環境構成や教師の援助）
- ・保護者アンケート項目の回答

中間評価

各種指標結果

- ・各学年の研究保育と協議・エピソード研修を行い、夢中とはどのような姿なのか、子どもの姿からどのような育ちを願い、関わっていくのか、そのために環境構成などについて考察した。
- ・保護者アンケート項目
「教育目標『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』に向けての保育を行っているか」
大変そう思う…78.4% そう思う…21.6%
「安全で豊かな経験ができるように整えられているか」
大変そう思う…70.6% そう思う…29.4%
- ・教職員アンケート
「教育目標『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』に向けての保育を行っているか」
大変そう思う…92.9% そう思う…7.1%
「安全で豊かな経験ができるように整えられているか」
大変そう思う…71.4% そう思う…28.6%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ エピソード研修では、一人一人の興味や思いなど個々の姿を捉え、ありのままを認めていくことが、夢中になる要素となるのではないかということ、環境や教師の援助を通して考えることができた。
- ・ 研究保育では、地域の小学校長・保育園教員にも保育を見てもらい、子どもの夢中になって遊ぶ姿について研修した。子どもの姿から何を体験させたいのかを捉え、環境に意図をもたせることや、活動のねらいについて、子どもの姿から研修できた。“夢中になる”の捉え方や子どもの姿の受け止め方、つながりを意識した関わりなど、各学年の大事にすることを共有し、育ちが繋がっていくことを今後も研修していきたい。
- ・ 保護者アンケートより、教育目標に向けての保育について概ね満足されているが、同じ項目では教職員の方が高い評価となっている。保護者へのより日々の保育や教育への理解が深まるように発信していく必要がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 日々の保育の中で、夢中になっている姿や子どもの心の動きを捉えたり、つながりを意識したりできる援助について、考えていく。
- ・ 人とつながりを感じたり、いろいろな人と関わったりする環境や援助を園全体で考え、それぞれの学年の発達に応じた子どもの育ちが繋がっていくようにしていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・ アンケート項目

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公立幼稚園の教育のすばらしさを感じている。今後も続けていってほしい。これを広く発信していくことが必要だと思う。
---------	---

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
保護者アンケート項目	
「教育目標『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』に向けての保育を行っているか」 大変そう思う…86.3% そう思う…13.7% 前期から「大変そう思う」が7.9%上昇	
「安全で豊かな経験ができるように整えられているか」 大変そう思う…78.4% そう思う…21.6% 前期から「大変そう思う」が7.8%上昇	
・教職員アンケート	
「教育目標『心豊かにたくましく生きる子どもの育成』に向けての保育を行っているか」 大変そう思う…78.6% そう思う…21.4% 前期から「大変そう思う」が14.3%下降	
「安全で豊かな経験ができるように整えられているか」 大変そう思う…78.6% そう思う…21.4% 前期から「大変そう思う」が7.2%上昇	
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートは、前期より高い評価になっている。一方、教職員は、評価が下がっているが、課題が見えてきて、より子どもへの願いが強くなっているためではないか。 ・教師との信頼関係を土台に、友達との関わりを深めたり、主体的に活動したりする姿が見られた。研究保育やエピソード研修の中で、子どもの姿や思いの受け止め方について話し合い、多面的に捉えることに大切さを再確認した。 ・同じ活動でも、学年、時期によってもねらいが変わっていく。表面的な活動ではなく、日々の保育の中で、遊びを深めるということを大切に、子どもが興味をもち、試したり、気づいたり、またやってみたいと思ったりする豊かな環境や、十分な時間の中で丁寧に見取っていくことに取り組んでいきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の意図や願いが強い「やらせたい活動」ではなく、日々の生活や遊びの中で、子どもの興味を深めたり、試行錯誤したりして遊びを深めていくために子どもの姿や思いを見取り、丁寧に関わっていく。 ・遊びや活動の中で、どんな力を育もうとしているのか、そのための関わりや環境、発達や学年の育ちのつながりを明確にすることを意識して関わっていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での経験が、小学校の学びや生活にとっても生きていますと感じます。心温かい保育を今後も続けていってほしい。 ・園内展を見たときに、学年によって、同じ題材でも表現の仕方や用具が違い、表現の違いもよくわかって、おもしろかった。自分なりに感じたことを表現してほしいという幼稚園の思いを「感じることができた。

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組

- ・伏見住吉小との定例会を実施し、交流等についての事前事後の話合いの時間を確保し、子どもの育ちや課題について考察する。
- ・出前授業等、互いの保育・授業を参観・研修する機会を設定し、互いの教育や子どもたちの育ちや教師の援助・環境などについて、理解を深める。
- ・地域の就学前施設にも積極的に関わり、子どもの育ちのつながりを意識した幼児期の教育について考えていく。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・合同研修や幼小交流保育の実施回数や内容の充実度
- ・保護者アンケート項目の回答

中間評価

各種指標結果

- ・年度当初に幼小で年間計画について話し合い、幼小交流2回、地域の保育園と小学校教員との研修を夏に行った。幼小交流では、事前事後の話合いの中で、交流の中での互いのねらいについても共有できた。
- ・アンケートの結果「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」では、大変そう思う…60.8% そう思う…37.3% あまりそう思わない…1.9%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・年度当初に、幼小教員で、年間計画を確認するとともに、子どもの実態から共通の視点になりうるキーワードを共有できた。それを夏の研修で、地域の住吉保育園・住吉西保育園とも意見交流し、共通の視点として共通理解することができた。子どもの理解と共に、幼児教育や学びがつながっていることを考える機会になった。これを多くの教員に参加してもらう研修にすることが課題である。また、年度当初の年間計画をもう少し具体化し、計画的・継続的な交流になるように、カリキュラムに取り入れていくことが課題である。
- ・花の苗屋さんの交流、その後の砂場での交流と続けて交流があったことで、少し親しみをもてる姿が見られた。交流の意味や交流でのそれぞれの学びや育ちが共有することが課題である。
- ・幼小交流では、事前事後の打ち合わせで、互惠性のある交流になるようにそれぞれのねらいを共有できたことで、互いの教育や教員の思いや考えを聞くことができ、相互理解につながった。
- ・アンケート結果より、保護者は、幼保小の交流や教員研修などが、子どもの育ちにつながっていることを実感できにくいことがうかがえる。より発信していくことや、交流や教員の研修が育ちのつながりに関係するのかを伝えていくことが課題である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・幼保小交流での様子や子どもの育ち、教員間の研修など、ホームページや掲示物、終業式などで、保護者や地域に向けて発信し、架け橋期の充実や幼児教育の質の向上への理解を図る。
- ・幼保小交流では、事前・事後の研修の中で、子ども同士がよりつながりがもてたり、個の育ちをみんなで喜び合えたりできることを意識して、教員同士が活動でのねらいを共通理解し、関わりや援助について考えていく。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・幼保小の教員交流・研修内容の充実
- ・保護者アンケート項目の回答

学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前授業は、よい取り組みだと思う。今後も続けていってほしい。小学校と交流したり、先生同士の研修をしたりすることはとても良いことだと思う。 ・花の苗屋さんは、小学1年生の子どもや校長先生、地域の保育園の先生にも来てもらえてよかった。地域にも広げていければよいのではないか。
---------	--

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小の教員交流として、小学校校長先生や地域の保育園の先生が研究保育の参観に加えて、園内作品展や生活発表会の参観などで、子どもの姿や育ちを見て頂いた。 ・アンケートの結果「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」では、大変そう思う…78.4% そう思う…21.6% 前期から「大変そう思う」が17.6%上昇
自己評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育に小学校・地域の保育園からも参観、園内作品展や生活発表会にも参観して頂いた。小学校の発表を見に行くなど互いの子どもの姿や育ちを見合えたことも大きな成果である。今後は、管理職や一年生の教員だけでなく、多くの教員同士の交流が実現できるように、働きかけていく。 ・給食交流を年間3回行うことができ、5年生との交流や一年生の給食準備見学など、交流ごとに充実した内容になり、いろいろな経験をさせてもらった。また、入学体験では、子どもの安心のための環境を整えるために、幼稚園のおもちゃをお貸しするなどの交流もできた。 ・子どもの交流については、学級閉鎖などのため、予定していたものができなかった。子どもの思いを大切にしながらも、計画的に進めていく必要がある。交流の事前・事後の研修ができたことは成果として挙げられるが、子どもの育ちを共に喜びあえる互惠性のある交流になるようにしていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂場や給食交流など、子どもの交流は定期的に行えているので、保育・授業を見合うなど、教職員同士の研修を深めていく。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食交流が増えたことは、子どもにとって小学校に期待をもてるので、よい経験になっていい活動だと思う。 ・小学校とつながることは、とても大切だと思うので、今後も続けてほしい。

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児や支援の必要な子どもの預かり保育の増加を踏まえ、年齢や発達にあった遊具や環境など活動内容を工夫し、一人一人が安心して、楽しく過ごせるようにする。 ・異年齢で自然に関わる姿を大事にし、子ども同士で育ち合う機会となるように援助する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の参加人数 ・活動や預かり保育の指導計画の見直し

・保護者アンケート項目の回答

中間評価

各種指標結果

- ・ 早朝預かりは、5歳児が多いが、毎日10人ほどが利用している。通常預かり保育は、25名～30名ほどで、5歳児が多い。3歳児は、就労で利用しているほかはあまり利用がない。
- ・ 預かり保育の記録、子どもの姿をみて、より楽しく遊べるように、年齢や時間に応じて、玩具の種類を変更したり、パーテーションなどを活用して環境整備の見直しを図ったりしている。
- ・ アンケート結果

「預かり保育（朝預かりを含む）等の子育て支援の取組に意義を感じますか」

大変そう思う…82.4% そう思う…17.6%

「お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している」（51人中49人が参加）参加者49人回答

大変そう思う…56.9% そう思う…33.3% あまりそう思わない…5.8%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・ 早朝預かりでは、教師との触れ合いを大切にして、子どもが気持ちよく過ごせるように工夫している。また、通常預かりでも、大勢の参加人数にも関わらず、細やかに個々の姿を見取り、保護者にも担任へも報告がなされていることで、安心につながっている。
- ・ 預かり保育を就労のために利用していることが多く、子ども自身が長時間保育に疲れたり、参加するのを嫌がったりする姿がみられる。アンケート結果より、子ども自身が望んでいない場合も多いのではないかと予想する。
- ・ 個別に支援の必要な子どもが参加することも多く、個々への関わりに人員も時間も多く要し、安全に過ごすことが課題に挙げられる。

分析を踏まえた取組の改善

- ・ 子どもの姿を見て、子どもが興味をもったり、楽しんだりできる遊具の種類や活動を増やすなど、安心、安定して過ごせる預かり保育にしていく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・ 預かり保育の参加人数
- ・ 保護者アンケート項目の回答

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・ 朝の預かり保育は、就労している保護者にとって大変ありがたい。就労などの理由がないと預かり保育を利用できないと思っている保護者もいるかもしれないので、周知していければよいと思う。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・ 預かり保育の参加人数は、早朝預かり保育は、平均8～10名。預かり保育は、平均20名～30名。16時以降も、15名程度は残っており、支援を必要とする子どもや遅くまで参加する子どももいる。
- ・ アンケート結果

「預かり保育（朝預かりを含む）等の子育て支援の取組に意義を感じますか」

大変そう思う…86.3% そう思う…13.7%

「お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している」〈51人中46人が参加〉参加者46人回答
 大変そう思う…62.7% そう思う…25.5% あまりそう思わない…2%

自己評価

分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題

- ・長時間の利用をする子どももいるため、疲れた時に横になるスペースや、遊びが単調にならないように、時間や子どもの様子を見て、活動場所や遊びを工夫し、子どもたちものびのびと楽しんでいる。
- ・主に4・5歳児の利用が多いので、手先を使った知育玩具（ラキューやクーゲルバーンなど）の遊びが多い。続きができるように作品を残しておくことで、継続して遊びたい思いが続いている。折り紙やカードゲームなど、預かり保育教員と共に楽しみながら、友達との関わりが増え、年下の子どもに教える姿が見られ、異年齢での関わりも深まってきている。
- ・参加人数が多い上に、支援を必要とする子どもの利用もあるので、活動場所を分けることや活動内容の工夫、人員の配置などが課題として挙げられる。
- ・保護者アンケートから、概ね満足して下さっている。今後も安心して預けられるように、活動内容を充実させていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・早朝預かり保育でも、一人一人の状態に差があるので、参加人数や学年、時期に合わせておもちゃや活動内容を選んでいく。
- ・活動スペースに限りがあるが、一人でじっくりと遊べる場や異年齢での関わりができる場などそれぞれが居心地のよい場になるように、工夫していく。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・長時間の預かり保育の認知度がまだ低いのではないかな。
- ・働く保護者にとって、預かり保育が充実することはとてもいいことなので、もっとアピールしていけばいいと思う。

（4）子育ての支援に関して

具体的な取組

- ・満3歳児つぼみ組の回数の増加や、未就園の保護者同士がつながれたり、安心して子育ての悩みを相談できたりする場になるようにする。
- ・活動内容を記載した案内を作成し、製作や誕生会など活動内容を充実させ、所属感をもって未就園児クラスに参加できるようにする。
- ・日々の登降園時や懇談会、HPや手紙などを通して、子どもの姿を伝えたり、「ほっこり子育てひろば」で、子育ての困りや喜びを共有したりする機会をつくり、保護者と子どもの育ちを共に喜び合える関係を築いていく。
- ・乳幼児（児童館）への砂場を提供する。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・保護者アンケート項目の回答
- ・子育て支援の取組回数や参加人数、教育相談件数。未就園児保護者へのアンケートを実施する。
- ・学校運営協議会で、保護者代表より意見を聞く。

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果 <ul style="list-style-type: none"> 「ランチ（業者給食）の取組は意義を感じますか」 <ul style="list-style-type: none"> 大変そう思う…84.3% そう思う…13.7% あまりそう思わない…2% 「お子さんは安心して、楽しく幼稚園にかよっていますか」 <ul style="list-style-type: none"> 大変そう思う…80.4% そう思う…17.6% あまりそう思わない…2% 「預かり保育や未就園児教育相談等の子育て支援の取組に意義を感じますか」 <ul style="list-style-type: none"> 大変そう思う…82.4% そう思う…17.6% 子育て支援親子クラスを週2回、満3歳児預かり保育つぼみ組を週2回実施。参加人数は、3～8親子程度。地域の小規模保育園も園庭開放に来園し、交流することができた。 未就園児保護者へのアンケートを実施。回数・時間については満足されている。家では経験できないような活動を求めていることがわかった。 ほっこり子育てひろばでは、子育ての大変さや悩み、子どもの成長を共に喜ぶ機会になるようにし、同じように悩んでいることを知って安心されたり、子育ての経験を参考にできたりと、参加された方は、概ね満足されている。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就園児親子クラスの案内に、日にちだけでなく、イベント内容を記載することで、楽しみに参加する親子が増えてきた。また、月に一回は、季節の製作や誕生会を取り入れ、定期的に参加しやすい活動を工夫した。寒天遊びや手形アートなど、新しいものを取り入れることで、楽しみに参加されることが多かった。今後も活動内容をより充実できるように計画し、発信していきたい。 アンケート結果より、預かり保育・未就園教育相談等の子育て支援の取組について、概ね満足されている。業者弁当に関しても、利用率は高く、要望が大きいと感じている。 ほっこり子育てひろばは、就労などで参加しにくい時間ではあるが、保護者同士がつながったり、悩みを共有したりできる機会になっているので、参加したくなる会を目指して今後も続けていく。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 満3歳児預かり保育「つぼみ組」の発信 未就園児クラスの親子で楽しめる新たな活動内容の検討
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> つぼみ組への参加・問い合わせ数 未就園児親子クラスの参加率
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 満3歳児の預かり保育が実施していることを知らない人も多いと思う。いろいろなところへ発信できればいいと思う。児童館との交流では、園児さんが乳児さんの手をひく姿がとても温かくてよかった。地域との交流ができるように続けていってほしい。

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <p>アンケート結果</p> <p>「ランチ（業者給食）の取組は意義を感じますか」</p>
--

	<p>大変そう思う…84.3% そう思う…13.7% あまりそう思わない…2%</p> <p>・ 「お子さんは安心して、楽しく幼稚園にかよっていますか」</p> <p> 大変そう思う…80.4% そう思う…17.6% あまりそう思わない…2%</p> <p>「預かり保育や未就園児教育相談等の子育て支援の取組に意義を感じますか」</p> <p> 大変そう思う…82.4% そう思う…17.6%</p> <p>つぼみ組参加数は、7名 継続して参加し、弁当をもって預かり保育にも参加している。</p> <p>未就園親子クラスの参加は、登録者数 37 組 通常の参加人数は、5 組～8 組親子</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児クラスに参加している保護者向けに、どんな活動を期待しているかというアンケートを行った。家ではできない活動を期待されていることが分かり、布遊び、絵の具（スタンプ）遊び、楽器遊びなど、家庭では難しい遊びを取り入れることで、活動を目的に参加される方が増えた。 ・つぼみ組（満3歳児預かり保育）の利用や午後の預かり保育の利用も増え、安心して預けられる場として、子育て支援の意義を感じる。課題としては、近隣の児童館の子育てクラスとの日程調整や活動の充実が挙げられる。 ・ほっこり子育てひろばは、少人数で話しやすい雰囲気であり、生活習慣や子育ての悩みなどを話し合うことができた。保護者が参加してよかったと思える活動にしていきたい。 ・業者弁当は、一年を通して注文が一定数しており、必要性を感じている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業者弁当の利用率が高く、必要性を感じている。注文数を確保するという課題はあるが、回数を増やしたり、3歳児の利用開始日を早めたりするなど、実態に合わせて、工夫していきたい。 ・未就園児クラスの活動の充実を図り、地域の子育てセンターとして、幼稚園に来たいと思える経験や、保護者の安心できる場になるようにしていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満3歳児クラスのことは、まだ浸透していないと思われるので、いろいろなところへ発信していければよい。 ・小さいお子さんをもつ保護者が、安心して過ごせる場を今後も提供して欲しい。

（５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々と子どもが関わる機会を持つ。（地域との行事） ・行事や保育参観・園内展等への案内。意見・疑問等をいただき、幼稚園で大事にしていることを発信する。 ・自園の取組や教育内容をHPや幼稚園だよりでわかりやすく発信し、開かれた幼稚園づくりをする
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケート項目の回答 ・運営協議会での意見

中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果 「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」 大変そう思う…60.8% そう思う…37.3% 8月学校運営協議会で、教育目標や園の実態・教育内容について発信した。 評価委員会を行い、保護者評価と教職員評価の結果をみて、違いや今後の課題などを出し合った。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方々に教育方針について発信することができた。花の苗やさんや運動会での子どもの姿を通して、子どもの成長や園の教育を見て頂くことができた。 夏季休業期間中に伏見住吉小学校、住吉保育園、住吉西保育園との教員、保育士の研修が実施できた。子どもの実態の共有から、共通の視点を設定し、今後も交流や研修を通して子どもたちの育ちをつなげていくことを共通理解できた。 評価委員会では、保護者評価をもとに学級経営を振り返り、3歳児は、先生との信頼関係を大切にし、基本的な生活習慣を身につけるための丁寧な関わりを継続すること、4歳児では友達や集団で遊ぶ楽しさを十分に感じられるようにすること、5歳児は、互いに思いを伝え合いながら遊びを進めるためにも、自分の思いを相手にわかるように伝えることが課題であるという意見がでた。担任が大事に取り組んでいることや保育での子どもたちの育ちを、より伝わるようにホームページなどで、発信していく。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページやInstagramの定期的な更新などにより、地域や保護者に幼稚園教育を発信する。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート項目の回答 園行事や地域との交流について、学校運営協議会での意見聴取 ホームページの定期的な更新
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 花の苗屋さんは、毎年楽しみにしており、子どもたちの思いがこもった手作りのレジや看板など、見ているだけでも、丁寧に取り組んでいることがわかる。この取組をもっと広く知ってもらうために、より多くの地域の人に声をかけるなど、もっと工夫できることがあるのではないかと協力していきたい。

最終評価

<p>（中間評価時に設定した）各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート 「保幼小連携・地域との連携等では、子どもたちの育ちにつながっている」 大変そう思う…78.4% そう思う…21.6% 前期より「大変そう思う」が17.6%上昇 ホームページの定期的な更新は、行事などの更新はできたが、日常の遊びなど日々の生活の姿を知らせていくことは、少なかったように感じている。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童館、地域との共催行事の「ハロウィン」、地域女性会にお世話になる「茶道体験」、小学校と地域と一緒にする地域清掃など、地域の一員として、参加でき、地域の方と関わる機会が出来てよかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・茶道体験では、地域の会館に行かせてもらい、日常なかなか経験できない作法などを教えてもらったり、お茶やお菓子を飲ませて頂いたりした。伝統文化を感じると共に、子ども達のことを思う地域の皆さんの思いにも触れることができた。 ・学校運営協議会の方に、園内展や生活発表会を参観頂き、園児の姿や教育方針などを知ってもらう機会となった。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・茶道体験や地域の行事の経験を保育につなげたり、子どもの姿を発信したりするなど、地域とのつながりについて考えていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがのびのびしていて、自然とこちらの笑顔になります。先生方も快く対応して下さっていますので、話しやすく喜んでいきます。今後も地域とのつながりを大切にしていきたい。

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員一人一人が、心身ともに健康で、働きがいを感じられるようにする。 	
具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・仕事内容を明確にし、行事・業務の精選・簡略化。効率化を図る。 ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、見通しを持って取り組む。勤務時間の掲示 ・時間外勤務の削減 ・および校務支援員の活用 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務時間 ・校務支援員の活用の仕方・打合、会議に要する時間 	

中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間を意識することで、非常勤など担任以外は、比較的退勤時間が早まった。しかし、担任や管理職は、そこまで早まらなかった。 ・出張時には(月に1~2回)定時退勤できるが、園で仕事をしている時は、できにくかった。 ・校務支援員に仕事内容を伝える依頼書を作成したことで、優先順位がわかり、進めやすくなったが、経験が浅い校務支援員もいるので、直前になっての依頼や、わかりにくい指示などもあり、時間がかかった。 ・会議は、終了時間を決めることで、意識するようになったが、共通理解に時間が掛ることがあった。 	
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間が多様で、年度当初は、退勤時間の意識が薄かったが、少しずつ時間を意識するようになってきた。担任は、業務量が多く、遅くなることが多いが、必要なものなのか、仕事内容を精選する必要がある。 ・校務支援員に各担任の教材準備や片付けなどを助けてもらい、教員の負担軽減につながったが、校務支援員の有効活用するために、見通しをもって依頼することや依頼の仕方などに課題

	<p>がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異動者もあり、行事や日々の保育で共通理解することに時間を費やした。行事に対するそれぞれの学年のねらいや、担当、動きなど、教員同士の思いや考えの共有とわかりやすいレジユメの作成で、見通しをもてるようにすることが課題である。 ・勤務時間の多様化で、情報共有しにくいことは、1日の内容を書いたホワイトボードや職朝の内容を記入したノートを確認してもらうことで、共通理解を図ることができた。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の計画的な活用（園内の整備や効率的に運営するための整備） ・担任会と職員会の設定（担任会で打ち合わせをしてものを職員会で情報共有し、それぞれが担当の責任をもって、見通しをもって計画的に準備できるようにする。） ・定時退勤日の設定（水曜日）
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の活用の仕方 ・担任会・職員会の設定 ・定時退勤日の回数
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革モデル園になって、働き方改革に取り組んでおられることは、とてもいいことだと思う。教育現場の先生の勤務時間のことをよくニュースでも聞くので、ぜひ、積極的に取り組んでもらいたい。

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の活用では、前期に引き続き、各担任がする教材準備や片付けや、園内の整理などを助けてもらい、教員の負担軽減につながった。 ・担任会と職員会の設定がまだ定着してはいないが、事前に資料を配布し、情報共有することができた。 ・定時退勤日は、教員自身が意識できるようになってきたが、毎週は実施しにくかった。
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の活用では、教員が見通しをもって、仕事の依頼ができたため、スムーズに業務が遂行できるようになってきた。依頼されたことがわかりにくく戸惑うこともあったので、仕事内容の伝え方が課題である。また、少しずつ新しい業務もお願いし、より園全体の負担軽減に努めたい。 ・行事などのレジユメを作成することが定着してきた。担任会と職員会のすみわけを共通理解していきたい。担任が行事や保育に見通しをもてるので、担任会は今後も必要と考える。次回の担任会の案件を事前に伝えるなどして、担当が意識できるようにしていきたい。 ・定時退勤日を週1回設定したが、経験年数が浅い教員などは、時間に追われて逆にしんどい思いをしているように感じた。単に退勤時間を決めて焦らすだけにならないように、仕事内容の優先順位を決める、見通しをもって計画をたてる、仕事の分担など、園全体で取り組むことが必要と感じた。 ・働き方改革モデル園として、外部コンサル会社に入って頂き、一年間取り組んだ。意識の改善が少しずつ見られてきている。教職員も、取組の成果を実感することで、意識が変わってきた

	<p>ように感じる。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校務支援員の活用が軌道に乗ってきたが、校務支援員への依頼は、意図が伝わるように伝えていく。時間がかかるかもしれないが、新しい業務も手伝ってもらい、園全体の負担軽減につなげていく。 ・レジュメ作成を丁寧に行い、教職員が見通しをもって、自分事として取り組めるようにしていきたい。 ・定時退勤は、それぞれが意識してできるように、管理職が率先して行う。
<p>学校関係者評価</p>	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活発表会を見ても、教職員のチームワークのよさを感じる。 ・教職員が生き生きと働けるように、地域として協力していきたい。